

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

4-5

『2024年度スタート いつも思いやりをもって』 仙台YMCA 会長 菅野 健

4月の第一週に仙台YMCAが運営しているこども園・保育園、また、幼稚園や専門学校で入園式・入学式が行われました。今年度のスタートは桜の開花とともにスタートすることができました。皆様のご支援とご理解のもと新年度を迎えることができましたことを誠に感謝申し上げます。

思い返すと昨年度は、イスラエルとハマスの争いに端を発するイスラエルのガザ地区への報復攻撃、年明け早々に能登半島で震度6を超える地震の発生、未だに停戦の糸口すら見えないロシアのウクライナへの軍事侵攻の継続など、紛争と災害により、多くの方々の命が失われ、苦しみと悲しみの中にあった年度ではなかったでしょうか。そして新年度が始まった矢先、台湾でマグニチュード7.7の大地震が発生しました。

このような状況の中で、YMCAではその度に、緊急支援募金を実施し多くの個人の皆様、企業の皆様より募金をお預かりし、日本YMCA同盟を通じて支援してまいりました。台湾大地震の支援についても日本YMCA同盟が中心になり、支援体制の準備が進められているところです。

聖書のローマの信徒への手紙12章15節に「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という御言葉が記されています。この御言葉は、12章9節から21節にかけて、キリスト教的生活の規範として説かれている一節で、私た

ちが日々どのように過ごしていけば良いのかまとめられている箇所です。人が生きていく上で最も重要な教えの一つであり、キリスト教徒のみが規範とするものではなく、あらゆる人々が持ち合わせている、人を思いやる気持ちが表されている言葉ではないでしょうか。私たちは阪神淡路大震災、東日本大震災という未曾有の大災害を経験し、多くの大切な命や物を失い、未だに苦しみが続く人々がおられます。一方でその苦しみ、悲しみに寄り添う多くの支援の輪が確実に大きくなっていることを感じることができます。

先にご紹介した聖書の箇所は、2024年度の仙台YMCAの年間聖句となっています。

私たち仙台YMCAはどんなに苦しい状況の中でも、共に喜びと痛みを分かち合い、全ての人たちが心身共に健康で、自然との調和や公正な世界の実現を目指し、チャレンジしていける2024年度でありたいと考えております。

今年度も引き続き、皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



仙台市の桜の開花宣言が4月2日に出され、YMCAの桜も満開となりました。約4年前から行動制限が続いた新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、さまざまな影響が残るものの通常の生活に戻りつつあります。今年3月にはホテル専門学校8名の卒業生、幼稚園では34名の園児が卒業、健康事業部では大学卒業生を含むボランティアリーダーへの感謝会が行われました。どの場面でも講師の先生やスタッフ、仲間や後輩との別れを惜しみ、涙や声に詰まる場面もありました。卒業式では、園児たちが平和を願って「世界がひとつになるまで」を披露し、その成長した姿を垣間見ることができました。



2024年度に入り、4月6日には幼稚園の第83回入園式とホテル専門学校の入学式が大勢の保護者、講師の先生、スタッフ、役員、上級生の列席のもとに行われました。幼稚園では、社会のニーズに対応するため今年度より「1歳児と2歳児」の受け入れを決定し、本館の改修工事が3月末に完了、3歳児を含めて37名の新しい園児を迎えました。またホテル専門学校では、4月より「国際ビジネス科」を開設、ホテル科8名、国際おもてなし科26名、国際ビジネス科24名、計58名が入学しました。内50名が留学生ですが出身国はネパール、ベトナム、スリランカ、バングラデシュ、ロシアと多くのお国から来仙し、国際色豊かなホテル専門学校に様変わりとなりました。そして、文化や宗教、生活習慣が異なる人間同志が一堂に会することになりますが、お互い各々の違いを認め、YMCAが大切にしている4つの価値（思いやり、誠実さ、尊敬心、責任感）を大切に、人材の育成を計ってまいります。

仙台YMCAは、世界YMCA Vision 2030に基づき「仙台YMCA Vision 2030」中期計画（2024-2026年度）を策定中です。各部門が推進する3つのテーマと4つの領域、8つのゴールを目指してまいります。

時代は刻々と変化しております。最近の某新聞に100年後の日本は人口3千万（？）というショッキングな著名な経済学者の予測記事がありました。100年後と云えばすぐそこです。高齢化、人口減少、都市間格差など年々進み、私たちは否応なしに変化への対応が求められています。今後とも、皆さまのご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

今年度も一年間、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

社会福祉法人仙台YMCA福祉会は西中田、加茂、南大野田、長町の4園で400名余の園児をお預かりし、ここ数年続いておりました新型コロナウイルス感染症の心配も去り、ほぼ平常に戻った運営をいたしております。

一昨年度作成した将来事業構想（中期5年、長期10年）は3年目を迎え計画通りに進められております。コロナ感染症の影響も薄れてきたものの、2025年問題（「保育施設利用児童数が2025年度にピークを迎え、その後は緩やかに減少していくことが見込まれる」厚労省公表）が間近に迫ってきたことから、構想の見直しを昨夏より行い、この4月より積極的な防止策を計画に加え勇気をもって推進することといたしました。2020年4月に開園いたしました長町保育園の認定こども園への移行手続と自然（野外）保育場開設準備に着手することといたしました。



次世代へのスムーズな引継ぎを目指した人事刷新も図りました。加茂こども園の施設長と主幹保育教諭を交代いたしました。長らく主任保育士、施設長として尽力された高橋光子さんには、法人本部への異動を快諾いただき法人及び組織の管理業務に徹していただくこととなります。高橋さんの後任として岩根久仁恵さんに施設長、鈴木智恵美さんに主幹保育教諭を担っていただきます。高橋さんの長年にわたるご功績とご尽力にこの場をお借りして賛辞を送り、法人本部での更なるご活躍をご期待いたします。また、岩根さん、鈴木さんの一層のご精進をお願いいたします。

最後になりましたが、今年度も皆様のご活躍、ご協力により保育園・各こども園の一層の発展、そして職員一同のご健康を願うものであります。そして、YMCAに連なる皆様、尚一層のご支援をよろしくお願いいたします。



2023年12月、こども家庭庁は「こどもの居場所づくりに関する指針」を発表しました。その背景にはこどもにとって居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係しており、こどもが生きていく上で居場所があることは不可欠であるとしています。そして、『全てのこどもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で成長し、こどもが本来持っている主体性や創造力を十分に発揮して社会で活躍していけるよう、「こどもまんなか」の居場所づくりを実現する。』

ことを理念として掲げています。

仙台YMCAファミリーセンターでは、児童館、児童クラブ、アフタースクール、放課後等デイサービスなどの事業を通して、こどもの居場所となるプログラムをこれまで展開してきました。どのプログラムもYMCAがこれまでの100年を超える長い歴史の中で培ってきた野外活動プログラム、グループワークなどの体験活動や、YMCAの4つの価値（思いやり・誠実さ・尊敬心・責任感）に象徴されるような価値を持ち、子どもたちをいつも中心に置いた指導ができるリーダー達によって運営されています。仙台YMCAは、中期計画（2024年～2026年）の重点項目として「子どもの豊かな成長を支える人材の育成と環境の整備」を掲げました。子どもたちが安心・安全に過ごすことができ、YMCAの様々なボランティアを通して自ら社会に貢献する活動に参画したり、互いに認め合い、高めあうことができる居場所となるように、これからもますます充実したプログラムの開発と質の向上に努めてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

連載

加藤 総理事の

『みつかる。つながる。
よくなっていく。』

第10回

「“カーネギー”の普遍性に思うこと」

先日、軽井沢にあるホテルの総支配人と面会をしました。彼が40年前に感動を受けたある本を幹部職員に読んでもらおうと思ったとのこと。その本の名前は、1936年に出版されたデール・カーネギー著「人を動かす」という本でした。この本は、ビジネス本としてだけではなく、さまざまな人間関係で役立つ本としていまだに多くの人々に読まれています。

ホテルスタッフの「おもてなし」にも生かせる基本的な内容でもあるわけです。（蛇足ですが、カーネギーは、ニューヨークのYMCAの話し方教室の講師でした。）カーネギーは、人々が持つ欲求や感情に焦点を当て、その理解を通じて他者との関係を構築する方法を提唱しています。彼は、他者に対して尊重を示し、共感を持ち、相手の立場や価値観を尊重することが重要であると述べています。さらに、他者を批判せずに肯定的な姿勢を持つことが重要だとも述べています。他者を褒めることで相手の自尊心を保ち、信頼関係を築くことができるため、人間関係を構築する上で批判や非難よりも褒めることの方が効果的だと言っています。新年度が始まり、職場や学校で新たな人間関係が始まります。「相手を思いやる」「尊重する」「共感する」「褒める」ということは、100年前でも大切なことであり、今もそれが人間関係を築く重要なこととして語られています。私自身も約40年前この本に出会いました。改めてこの本を読んで基本に立ち返りたいと思います。

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人の共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えよう喜びの輪を広げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。



6月といえば仙台YMCAバザー！

昨年度は、コロナが明けて久々のバザー開催となりましたが、多くの方々にご参加いただき大盛況でした。

今年はさらにパワーアップして仙台YMCAバザーを開催いたします。スタッフ自慢の料理や屋台、子どもたちが作ったお菓子やグッズ、ゲームコーナー、物品バザーなど、おいしい・楽しい催しを用意してみなさまをお待ちしています。

今回のバザーの益金も仙台YMCAの活動をととして、児童福祉施設の子どものための支援や障がいのある子どもたちの支援、YMCAの活動を支えるボランティア育成支援に用いられます。みなさまのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。ご来場をお待ちしています！

● 日程：2024年6月9日(日) 10:00~14:00

● 場所：仙台YMCA立町会館

● お問い合わせ：

公益財団法人仙台YMCAバザー実行委員会事務局

〒980-0822 仙台市青葉区立町9-7

TEL:022-222-7533 / FAX:022-222-2952

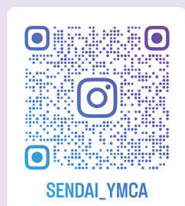
担当：糟谷・尾木



※物品バザーで販売する物品を募集しています！秘蔵の品(!?)や、食べきれない食品など大歓迎です。

物品寄贈方法：物品を仙台YMCA立町会館に直接お持ちください。立町会館にお持ちいただくことが難しい場合は、最寄り仙台YMCAの施設にお持ちいただくか、お問い合わせください。ただし、物品寄贈は未使用のものに限らせていただきます。

詳しくは仙台YMCAバザー特設サイトをご覧ください URL: <https://sites.google.com/sendai-ymca.org/bazaar/>



Follow Us!

Instagramの登録はこちらから↓

【Instagram】

アカウント名: sendai_ymca

URL: https://www.instagram.com/sendai_ymca/

『国際ビジネス科、スタートしました!!』

2024年4月、今年度新設された『国際ビジネス科』第1期生24名が、仙台YMCAでの学びをスタートさせました。ネパール、ロシア、ベトナム、スリランカ等、国籍も様々ですが、休憩時間のクラス内での公用語は“日本語”のようです。観光業界だけでなく様々な国際分野で活躍ができるような人材を目指して学んでいます。



専門学校は1日の授業時間も長く、アルバイトをしながらの勉学はなかなか大変なことも多いですが、みんなで協力し、記念すべき第1期生として新しい歴史を切り開いていきます！

専門学校：小林尚美

維持会費 (3月19日~4月17日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

維持会員A

坂本 満 千葉 睦雄 松田 美彰

※敬称略



一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ: 本部事務局

TEL: 022-222-7634

FAX: 022-222-2952